

熊本県における畑作地帯の動向について

第1報 菊池郡合志村を中心として

平川 公明*・山部今朝則*・南 勉*・松岡 陽*

HIRAKAWA, K., YAMABE, K., MINAMI, T., and MATSUOKA, Y. Upland Farming in Kumamoto Prefecture. 1. Investigation at Gōshimura, Kikuchigun.

1. はしがき 熊本県の耕地は約 13 万町で内畑地が 5 万町を占め農業経営上畑地のもつ意義は極めて大きい。畑で畑率 70% 以上にも及ぶ地帯が大概 5 つに大別され各々の動向も一様でないが今度はその一つ菊池郡合志村を中心とした畑作地帯の状況について検討を行った。

2. 概況 菊池郡合志村は熊本市より 3~4 里の距離にあるにもかかわらず土壌は火山灰の不良土で作物の反収も低く、普通作を中心とした不合理な経営を行っている面が多い。最近では陸稲、小豆、タバコと云つた作物の作付が急激に増加し収益を高めているが、7~8月にかけて大きな労働ピークを形成し輪作様式をくずし地力維持に暗い影をなげかけている。複条式の間作様式が導入され第1表にみる如く従来の 1.5 尺畦単条は全面的に切かえられつつあるが土地利用度を高め労働配分を合理化した役割は大きい。そして又最近に於ては畜力カルチの普及によつてこの様式は益々有利になつている。又複条式の間作様式は表作によつて裏作の作式が決定される。

この地帯は基幹作物がなく作物の種類も多く労働強化になる傾向があるが、その間に収入は低く第2表にみる如く規模別作目収入の違いも余りみられない。結

局小規模経営では兼業へ大規模経営ではタバコ作業に依存する傾向が強労働強化となつている面が多い。

第1表 合志村における主な作付様式

麦一大小豆—陸稲	畦巾 4.0 尺の何れも複条作付
麦 — 陸稲	畦巾 1.5 尺の何れも単条作付
麦一大小豆—ソバ	畦巾 3.0 尺の麦、ソバ単条、大小豆複条作付
麦一大小豆—粟	畦巾 3.5~4.5 尺の何れも複条作付
麦 — 粟	畦巾 1.5 尺の何れも単条作付
麦 — 甘藷	畦巾 5.0~5.6 尺の何れも複条作付
ナタネ — 甘藷	畦巾 2.5~3.0 尺の何れも単条作付
麦—タバコ—粟	畦巾麦、タバコ 3.4 尺、粟 1.5 尺の何れも単条

第2表 経営規模を異にした場合の収入比率(%)

	米	麦	雑穀	甘藷	工業作物	養蚕	養豚	その他
0~5反	19.2	25.3	19.7	8.5	13.2	5.1	0.7	7.9
5~10	19.6	24.9	21.9	7.7	12.4	5.9	2.8	4.6
10~15	19.5	22.2	18.3	8.2	16.0	6.7	5.3	3.2
15~20	18.3	22.3	18.0	8.4	18.0	7.9	1.8	2.9
20~	22.2	22.2	18.5	8.5	15.0	3.5	3.2	2.9

* 熊本縣農業試験場